

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
設置者	学校法人 高梁学園							
大学の名称	吉備国際大学 (KIBI International University)							
大学本部の位置	岡山県高梁市伊賀町8番地							
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて学部・学科の学術研究領域に関する理論および社会の問題を研究教授し、応用能力をもつ人格を陶冶することを目的とする。							
新設学部等の目的	メディア芸術の文化的価値と社会の重要性を理解しつつ、アニメーターとしてだけでなく、作品の制作・収集、クリエイター等の作品の発表をサポートでき、アニメーション文化の発展を総合的に担える専門職人材の養成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文化財学部 [School of Cultural Properties] アニメーション文化学科 [Department of Animation Culture]	年	人 40	年次人 -	人 160	学士 (文化財学)	年月 第年次 平成22年4月 第1年次	岡山県高梁市 伊賀町8番地
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	<p>《吉備国際大学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健科学研究科作業療法学専攻修士課程(通信教育課程)設置予定(平成21年4月届出済) 心理学研究科心理学専攻修士課程設置予定(平成21年12月届出予定) 臨床心理学研究科を心理学研究科に名称変更予定 (通信制)臨床心理学研究科を心理学研究科に名称変更予定 社会学部国際社会学科[定員増]40名→50名(10) ビジネスコミュニケーション学科[定員増]50名→60名(10) 社会福祉学部社会福祉学科[定員減]80名→50名(△30) 子ども福祉学科[定員減]70名→40名(△30) アニメーション文化学科入学定員40名(大学全体の収容定員増減無し) 留学生別科設置予定(平成21年10月届出予定) <p>《九州保健福祉大学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 視機能療法学別科設置予定(平成21年8月届出済) <p>《順正短期大学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 吉備国際大学短期大学部への名称変更(平成21年9月届出予定) 歯科衛生専攻からデンタルビューティー専攻に変更することに係る学則変更(平成21年10月届出予定) 幼児教育科及び通信教育部幼児教育科の募集停止(平成21年9月届出予定) 専攻科幼児教育専攻の募集停止(平成21年9月届出予定) 							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	文化財学部 アニメーション文化学科	講義 科目 97	演習 科目 8	実習 科目 7	計 科目 112	単位 124		

	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
教 員 の 概 要	新設校分	人	人	人	人	人	人	人
	文化財学部 アニメーション文化学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	15 (15)
	計	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	15 (15)
組 織 の 分 割	社会学部 国際社会学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	30 (30)
	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	31 (31)
	社会学部 スポーツ社会学科	6 (6)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	26 (26)
	保健科学部 看護学科	5 (5)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	13 (13)	3 (3)	21 (21)
	保健科学部 理学療法学科	5 (5)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	17 (17)
	保健科学部 作業療法学科	7 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	1 (1)	24 (24)
	社会福祉学部 社会福祉学科	11 (11)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	32 (32)
	社会福祉学部 子ども福祉学科	4 (4)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	26 (26)
	国際環境経営学部 環境経営学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	28 (28)
	心理学部 臨床心理学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	22 (22)
	文化財学部 文化財修復国際協力学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	19 (19)
	計	69 (69)	33 (33)	29 (29)	8 (8)	139 (139)	4 (4)	276 (276)
	合 計	73 (73)	35 (35)	31 (31)	8 (8)	147 (147)	4 (4)	291 (291)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	58 人 (58)		12 人 (12)		70 人 (70)		
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員	1 (1)		6 (6)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員	6 (6)		0 (0)		6 (6)		
計	65 (65)		18 (18)		83 (83)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	順正短期大学・順正高等看護専門学校と共用 大山金男氏から平成4年4月1日より20年間借用(2,922.00㎡) 高梁市から昭和63年7月29日より22年間借用(18,470.00㎡) 大山金男氏から平成9年4月1日より20年間借用(727.00㎡) 小幡勇氏から昭和61年9月1日より3年毎の自動更新(113.40㎡) (株)三葉から平成13年5月1日より30年間借用(853.04㎡)		
	校舎敷地	0 ㎡	78,919.54 ㎡	0 ㎡	78,919.54㎡			
	運動場用地	0 ㎡	51,642.00 ㎡	0 ㎡	51,642.00㎡			
	小 計	0 ㎡	130,561.54 ㎡	0 ㎡	130,561.54㎡			
	そ の 他	0 ㎡	80,578.51 ㎡	0 ㎡	80,578.51㎡			
	合 計	0 ㎡	211,140.05 ㎡	0 ㎡	211,140.05㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	順正短期大学と共用		
		30,264.87 ㎡ (30,264.87 ㎡)	2,711.44 ㎡ (2,711.44 ㎡)	7,785.86 ㎡ (7,785.86 ㎡)	40,762.17 ㎡ (40,762.17 ㎡)			
教室等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	4 2 室	3 6 室	4 0 室	2 室 (補助職員1人)	1 室 (補助職員1人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		文化財学部アニメーション文化学科			8 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	文化財学部 アニメーション文化学科	116 [4] (116 [4])	12 [4] (12 [4])	7 [6] (7 [6])	269 (269)	65 (65)	4 (4)	
	計	116 [4] (116 [4])	12 [4] (12 [4])	7 [6] (7 [6])	269 (269)	65 (65)	4 (4)	
図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		1,885.16 ㎡	392 席	158,000 冊				
体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				順正短期大学と共用	
		2,625.50 ㎡	雨天練習場(野球)		サッカー場(人工芝)1面			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
		教員1人当たり 研究費等	教授 准教授 講師 助教 助手	/	千円	千円	千円	千円
					520	520	520	520
					465	465	465	465
	415				415	415	415	
	305	305	305	305				
	305	305	305	305				
共同研究費等		/	千円	千円	千円	千円		
			10,000	10,000	10,000	10,000		
図書購入費		千円	千円	千円	千円	千円		
		500	500	500	500	500		
設備購入費		千円	千円	千円	千円	千円		
		20,000	10,000	10,000	10,000	10,000		
学生1人当たり納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円 1,460	千円 1,160	千円 1,160	千円 1,160	千円 ――	千円 ――	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等を以て維持管理する						

既設大学等の状況	大学の名称	吉備国際大学						備考			
	既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	取容量	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	社会学部										
	国際社会学科	4	40	3年次10	200	学士(社会学)	0.91	平成2年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	平成20年度 国際社会学科入学定員 50名→40名(△10)	
	ビジネスコミュニケーション学科	4	50	3年次10	220	学士(社会学)	0.95	平成2年度			
	文化財修復国際協力学科	4	—	—	50	学士(社会学)	0.70	平成13年度		社会学部文化財修復国際協力学科 平成19年度から学生募集停止	
	スポーツ社会学科	4	120	3年次10	330	学士(社会学)	1.14	平成17年度		平成17年度学科増 国際社会学科・ビジネスコミュニケーション学科・ 文化財修復国際協力学科・精神保健福祉 学科・福祉ボランティア学科より各10名の合計 50名の入学定員を振り替え、スポーツ社会学 科を設置	
	保健科学部										
	看護学科	4	40	3年次10	180	学士(保健科学)	1.12	平成7年度		平成19年度定員増 社会福祉学部福祉ボランティア学科の入学定員 70名について募集停止を行い、30名をス ポーツ社会学科へ、40名を社会福祉学部社 会福祉学科へ定員移行	
	理学療法学科	4	40	—	160	学士(保健科学)	1.10	平成7年度		平成21年度 スポーツ社会学科入学定員80名→120名(40) 3年次編入学定員設置	
	作業療法学科	4	40	—	160	学士(保健科学)	1.03	平成7年度			
	社会福祉学部										
	社会福祉学科	4	80	3年次20	440	学士(社会福祉学)	0.63	平成7年度		平成20年度 社会福祉学科入学定員 140名→80名(△60)	
	健康スポーツ福祉学科	4	—	—	310	学士(社会福祉学)	0.81	平成7年度		平成14年度名称変更 保健福祉学科→健康スポーツ福祉学科 平成20年度健康スポーツ福祉学科入学定員 100名→90名(△10) 平成21年度から学生募集停止	
	精神保健福祉学科	4	—	—	—	学士(社会福祉学)	—	平成12年度		精神保健福祉学科 平成18年度から学生募集停止 在学生がいなくなる時をもって学科廃 止の手続き予定	
	子ども福祉学科	4	70	—	280	学士(社会福祉学)	0.68	平成18年度			
	臨床心理学科	4	—	—	80	学士(臨床心理学)	0.82	平成12年度		社会福祉学部臨床心理学科・福祉ボラ ンティア学科	
	福祉ボランティア学科	4	—	—	70	学士(社会福祉学)	0.68	平成12年度		平成19年度から学生募集停止	
	政策マネジメント学部										
	知的財産マネジメント学科	4	—	—	160	学士(知的財産マネジメント)	0.13	平成16年度		政策マネジメント学部 知的財産マネジメント学科	
	環境リスクマネジメント学科	4	—	—	160	学士(環境リスクマネジメント)	0.21	平成16年度		環境リスクマネジメント学科 平成20年度から学生募集停止	
	心理学部										
	臨床心理学科	4	60	—	200	学士(臨床心理学)	0.61	平成19年度		平成20年度 臨床心理学科入学定員 80名→60名(△20)	
	文化財学部										
文化財修復国際協力学科	4	40	3年次20	130	学士(文化財学)	0.49	平成19年度	平成20年度 文化財修復国際協力学科入学定員 50名→40名(△10)			
国際環境経営学部											
環境経営学科	4	70	—	140	学士(環境経営学)	0.33	平成20年度				

既設 大学 等 の 状 況	大学の名称	吉備国際大学							備考	
	既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	取 容 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	大学院 社会学研究科 社会学専攻									
	博士(後期)課程	3	4	—	12	博士 (社会学)	0.08	平成9年度		
	修士課程	2	12	—	24	修士 (社会学)	0.62	平成7年度		
	文化財保存修復学研究科 文化財保存修復学専攻									
	修士課程	2	5	—	10	修士 (文化財保存 修復学)	2.00	平成17年度		
	保健科学研究科 保健科学専攻									
	博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健学)	0.99	平成17年度		
	修士課程	2	6	—	12	修士 (保健学)	0.83	平成12年度		
	社会福祉学研究科 社会福祉学専攻									
	博士(後期)課程	3	—	—	3	博士 (社会福祉学)	0.66	平成13年度		社会福祉学研究科博士(後期)課程 平成20年度から学生募集停止 (九州保健福祉大学との連合研究科)
	修士課程	2	7	—	14	修士 (社会福祉学)	0.42	平成11年度		
	臨床心理学研究科 臨床心理学専攻									
	博士(後期)課程	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.00	平成18年度		
	修士課程	2	15	—	30	修士 (臨床心理学)	0.83	平成16年度	岡山県高梁市 伊賀町8番地	
	大学院(通信制) 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻									
	修士課程	2	10	—	20	修士 (社会福祉学)	0.95	平成14年度		
	国際協力研究科 国際協力専攻									
	修士課程	2	7	—	14	修士 (国際協力)	0.49	平成18年度		平成21年度 国際協力研究科修士課程 一連合国際協力研究科修士課程 (九州保健福祉大学との連合研究科)
	臨床心理学研究科 臨床心理学専攻									
	博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (臨床心理学)	0.66	平成18年度		
	保健科学研究科 理学療法専攻									
	修士課程	2	15	—	30	修士 (理学療法学)	0.63	平成20年度		
	知的財産学研究科 知的財産学専攻									
	修士課程	2	30	—	60	修士 (知的財産学)	0.51	平成20年度		
	環境リスクマネジメント研究科 環境リスクマネジメント専攻									
	修士課程	2	10	—	20	修士 (環境リス クマネジメント)	0.50	平成20年度		

既設 大学 等の 状況	九州保健福祉大学									備考	
	大学の名称 既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	取 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地		
	社会福祉学部										
	東洋介護福祉学科	4	—	—	80	学士 (社会福祉学)	0.41	平成11年度		東洋介護福祉学科 平成19年度から学生募集停止	
	社会福祉計画学科	4	—	—	—	学士 (社会福祉学)	—	平成11年度		社会福祉計画学科 平成15年度3年次編入学定員設置 平成16年度から募集停止 在学生がいなくなる時をもって学科廃 止の手続き予定	
	スポーツ健康福祉学科	4	40	3年次 2	164	学士 (社会福祉学)	0.99	平成16年度		スポーツ健康福祉学科 平成16年度設置	
	福祉環境マシナリ学科	4	—	3年次 3	63	学士 (社会福祉学)	0.48	平成16年度		福祉環境マシナリ学科 平成16年度設置 平成19年度から学生募集停止	
	臨床福祉学科	4	—	3年次 5	105	学士 (社会福祉学)	0.90	平成11年度			
	臨床福祉学科									平成19年度 東洋介護福祉学科(80名)、福祉環境マシ ナリ学科(60名)の学生募集を停止し、臨床 福祉学科を50名増員(150名)、子ども保育 福祉学科(50名)及び保健科学部臨床工学 学科(40名)を新たに設置	
	臨床福祉専攻	4	60	3年次 5	205		0.74	平成19年度			
	臨床介護専攻	4	—	—	80		0.28	平成19年度			
	動物療法専攻	4	20	3年次 3	73	学士 (社会福祉学)	0.72	平成19年度		臨床福祉学科 入学定員150名 3年次編入学定員 8名 内訳 臨床福祉専攻(80名)(編入5名) 臨床介護専攻(40名) 動物療法専攻(30名)(編入3名)	
	福祉ビジネス専攻	4	30	—	60		0.54	平成20年度			
	臨床心理専攻	4	40	—	40		0.35	平成21年度		平成20年度 臨床福祉学科臨床福祉専攻を80名から60 名、動物療法専攻を30名から20名に減員 し、福祉ビジネス専攻(30名)を新たに開設	
	子ども保育福祉学科	4	50	—	150	学士 (社会福祉学)	0.54	平成19年度		臨床介護専攻 平成21年度から学生募集停止 臨床心理専攻 平成21年度設置	
	保健科学部										
	作業療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.99	平成11年度	宮崎県延岡市 吉野町1714番地1		
	言語聴覚療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.87	平成11年度			
	視機能療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.56	平成11年度			
	臨床工学科	4	40	—	120	学士 (保健科学)	0.81	平成19年度			
	薬学部										
	薬学科	6	180	—	760	学士 (薬学)	0.91	平成15年度		平成15年度 吉備国際大学社会学部国際社会学科及 びビジネスコミュニケーション学科の入学定員各 40名の計80名並びに順正短期大学保健 科健康美学デザイン専攻の入学定員を振 り替えて薬学部薬学科を設置	
	動物生命薬科学科	4	30	—	60	学士 (動物生命 薬化学)	0.66	平成20年度		薬学部薬学科 平成18年度 4年制から6年制へ移行 入学定員120名→200名(80) 平成20年度 入学定員200名→180名(△20) 動物生命薬科学科 入学定員30名で開設	
	通信教育部 社会福祉学部										
	臨床福祉学科	4	500	2年次 30 3年次 150 4年次 10	3,200	学士 (社会福祉学)	0.17	平成14年度		平成20年度 通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科 入学定員 900名→500名(△400)	
	大学院(通信制) 連合社会福祉学研究所 社会福祉学専攻										
	博士(後期)課程	3	5	—	15	博士 (社会福祉学)	1.06	平成16年度		平成20年度より名称変更 社会福祉学専攻科博士(後期)課程 →連合社会福祉学専攻科博士(後期)課程 (吉備国際大学との連合研究科)	
	修士課程	2	20	—	40	修士 (社会福祉学)	0.62	平成14年度			
	保健科学研究科 保健科学専攻										
	博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健科学)	1.33	平成16年度			
	修士課程	2	7	—	14	修士 (保健科学)	2.00	平成14年度			

既設大学等の状況	大学の名称	順正短期大学							備考		
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容量	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
	保健科		年	人	年次人	人		倍			
	歯科衛生専攻	2	60	—	120	短期大学士(保健科学)	0.48	昭和63年度			平成19年度 健康美学デザイン専攻(60名)の学生募集を停止すると共に、保健福祉専攻(80名)の店員を減じ(△40名)、健康科学専攻(50名)及び美容デザイン専攻(40名)を開設 100名の入学定員を移行し、90名の新専攻を設置した残10名については、収容定員減に関わる学則変更届出
	健康福祉専攻	2	—	—	40	短期大学士(保健科学)	0.22	平成元年			
	美容デザイン専攻	2	40	—	80	短期大学士(保健科学)	0.62	平成19年度			平成20年度 学則変更に伴う専攻名変更 保健福祉専攻→健康福祉専攻 健康科学専攻(50名)の学生募集を停止すると共に、歯科衛生専攻(80名)の定員を減じ(△20)、美容デザイン専攻(40名)の開設及び幼児教育科の定員を増(50名→70名) 60名の入学定員を移行し、40名の新専攻を設置並びに20名の定員増をした残10名については、収容定員減に関わる学則変更届出
	美容デザイン専攻	2	40	—	80	短期大学士(保健科学)	0.55	平成20年度			
	幼児教育科	2	70	—	140	短期大学士(幼児教育学)	0.34	昭和42年度	岡山県高梁市伊賀町8番地		
	専攻科										
	幼児教育専攻	2	5	—	10	学士(教育学)	1.00	平成10年度			健康福祉専攻 平成21年度から学生募集停止
	通信教育部										
	幼児教育科	3	100	—	200	短期大学士(幼児教育学)	0.27	平成20年度			通信教育部幼児教育科 平成20年度設置
	専攻科(通信制)										専攻科(通信制)
	美容デザイン専攻	1	40	—	40		0.12	平成21年度			美容デザイン専攻 平成21年度設置
附属施設の概要	<p>名称：吉備国際大学文化財総合研究センター(大学13号館1階) 吉備国際大学臨床心理相談研究所(大学13号館2・3階) 吉備国際大学保健福祉研究所(大学15号館)</p> <p>目的：学位分野の研究</p> <p>所在地：岡山県高梁市奥万田町3796-1(大学13号館) 岡山県高梁市奥万田町3794(大学15号館)</p> <p>設置年月：平成15年4月(大学13号館) 平成20年3月(大学15号館)</p> <p>規模等：建物 1, 414.85㎡(大学13号館) 1, 157.80㎡(大学15号館)</p>										

教育課程等の概要															
(文化財学部 アニメーション文化学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	言語教育	英語Ⅰ	1前・後	2		○				1					兼1 兼1 兼1 兼1
		英語Ⅱ	1前・後	2		○				1					
		英語Ⅲ	2前・後	2		○				1					
		英語Ⅳ	2前・後	2		○				1					
		フランス語Ⅰ	1前・後	2		○									
		フランス語Ⅱ	1前・後	2		○									
		フランス語Ⅲ	2前・後	2		○									
		フランス語Ⅳ	2前・後	2		○									
		ドイツ語Ⅰ	1前・後	2		○				1					
		ドイツ語Ⅱ	1前・後	2		○				1					
		ドイツ語Ⅲ	2前・後	2		○				1					
		ドイツ語Ⅳ	2前・後	2		○				1					
		中国語Ⅰ	1前・後	2		○				1					
		中国語Ⅱ	1前・後	2		○				1					
		中国語Ⅲ	2前・後	2		○				1					
		中国語Ⅳ	2前・後	2		○				1					
	日本語Ⅰ春	1前・後	2		○									兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2	
	日本語Ⅰ秋	1前・後	2		○										
	日本語Ⅱ春	2前・後	2		○										
	日本語Ⅱ秋	2前・後	2		○										
	応用日本語Ⅰ春	1前・後	2		○										
	応用日本語Ⅰ秋	1前・後	2		○										
	応用日本語Ⅱ春	2前・後	2		○										
	応用日本語Ⅱ秋	2前・後	2		○										
	日本語研究Ⅰ春	1前・後	2		○										
	日本語研究Ⅰ秋	1前・後	2		○										
	日本語研究Ⅱ春	2前・後	2		○										
	日本語研究Ⅱ秋	2前・後	2		○										
小計 (28 科目)	—	0	56	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼3	—	
情報教育	情報処理Ⅰ	1前・後	2			○						1			
	情報処理Ⅱ	1前・後	2			○						1			
小計 (2 科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	1	0	0	0	—	
総合科目A群	世界の中の日本	1前・後	2			○								兼1 兼1	
	備中高梁に学ぶ	1前・後	2			○									
	キャリア開発Ⅰ	1前・後	2			○			4	2	2				
	キャリア開発Ⅱ	3前・後	2			○			4	2	2				
小計 (4 科目)	—	6	2	0	—	—	—	4	2	2	0	0	兼2	—	
総合科目B群	自然界と人間	宇宙の物理	1・2・3・4前・後	2		○								兼1 兼1 兼1 兼1	
		生物の科学	1・2・3・4前・後	2		○									
		生活の中の化学	1・2・3・4前・後	2		○									
		生命と環境	1・2・3・4前・後	2		○									
	世界と人間	哲学への招待	1・2・3・4前・後	2			○							兼1 兼1 兼1 兼1	
		歴史と社会	1・2・3・4前・後	2			○								
		多文化理解	1・2・3・4前・後	2			○								
		宗教と人間	1・2・3・4前・後	2			○					1			
	人と心の世界	人と心の世界	1・2・3・4前・後	2			○							兼1 兼1 兼1 兼1	
		法律と社会	1・2・3・4前・後	2			○								
		日本国憲法	1・2・3・4前・後	2			○								
		民法	1・2・3・4前・後	2			○								
社会と人間	社会と人間	1・2・3・4前・後	2			○					1		兼1 兼1 兼1 兼1		
	経済と生活	1・2・3・4前・後	2			○									
	統計と確率	1・2・3・4前・後	2			○									
	統計と社会	1・2・3・4前・後	2			○									
ゆたかな人間性	人と環境	1・2・3・4前・後	2			○							兼1 兼1 兼1 兼1		
	人権と政治	1・2・3・4前・後	2			○					1				
	文章表現入門	1・2・3・4前・後	2			○			1						
	文学への招待	1・2・3・4前・後	2			○									
総合科目B群	美術の見方	1・2・3・4前・後	2			○							兼1 兼1 兼1 兼1		
	音楽のたのしみ	1・2・3・4前・後	2			○									
	生涯スポーツ論	1・2・3・4前・後	2			○									
	生涯スポーツ実習	1・2・3・4前・後	2			○		○							
小計 (24 科目)	—	0	48	0	—	—	—	1	0	2	0	0	兼17	—	

専門基礎科目	文化史Ⅰ	1前・後	2		○								兼1	オムニバス オムニバス
	文化史Ⅱ	1前・後	2		○								兼1	
	美術史Ⅰ	1前・後	2		○								兼1	
	美術史Ⅱ	1前・後	2		○								兼1	
	色彩学	1前・後	2		○				1					
	撮影光学	1前・後	2		○								兼1	
	文化財情報学Ⅰ	1前・後	2		○								兼1	
	文化財情報学Ⅱ	1前・後	2		○								兼1	
	現代社会学Ⅰ	2前・後	2		○								兼1	
	現代社会学Ⅱ	2前・後	2		○								兼1	
	文化財保存学Ⅰ	2前・後	2		○								兼3	
	文化財保存学Ⅱ	2前・後	2		○								兼3	
	現代美術概論	2前・後	2		○								兼1	
	芸術概論	2前・後	2		○					1				
	工芸技法	2前・後	2		○								兼1	
	コンピュータグラフィックス基礎Ⅰ	2前・後	2			○					1			
	コンピュータグラフィックス基礎Ⅱ	2前・後	2			○					1			
	西洋絵画技法	3前・後	2			○							兼1	
	東洋絵画技法	3前・後	2			○							兼1	
	文化財から学ぶ歴史と科学	4前・後	2			○							兼1	
	国際協力概論Ⅰ	1前・後	2			○							兼1	
	国際協力概論Ⅱ	1前・後	2			○							兼1	
小計 (22 科目)	—	0	44	0	—			0	1	1	0	0	兼14	—
アニメーション科目	日本アニメ文化論	1前・後	2		○				1				兼1	—
	アニメーション基礎	1前・後	2		○								兼1	
	アニメーション概論	1前・後	2		○								兼1	
	デッサン基礎Ⅰ	1前・後	2		○				1					
	デッサン基礎Ⅱ	1前・後	2		○				1					
	広告原理	3前・後	2		○								兼1	
	色彩心理学	3前・後	2		○								兼1	
	映像概論	2前・後	2		○								兼1	
	認知科学概論	2前・後	2		○								兼1	
	映像音響概論	2前・後	2		○			1						
	アニメーション演習Ⅰ	2前・後	2			○		1						
	アニメーション演習Ⅱ	2前・後	2			○		1						
	2DCGアニメーション演習	2前・後	2			○				1				
	3DCGアニメーション演習	2前・後	2			○				1				
	シナリオ制作	3前・後	2			○							兼1	
	著作権法学	2前・後	2			○							兼1	
	ブランド戦略と知的財産法	2前・後	2			○							兼1	
	映画・アニメの著作権	3前・後	2			○							兼1	
	出版・マンガの著作権	3前・後	2			○							兼1	
	アニメーション実習Ⅰ	3前・後	2					1						
	アニメーション実習Ⅱ	3前・後	2					1						
	アニメーション実習Ⅲ	4前・後	2					1						
小計 (22 科目)	—	6	38	0	—		2	1	1	0	0	兼8	—	
関連科目	文化財の科学Ⅰ	2前・後	2		○								兼1	—
	文化財の科学Ⅱ	2前・後	2		○								兼1	
	光と色の科学Ⅰ	1前・後	2		○								兼1	
	光と色の科学Ⅱ	1前・後	2		○								兼1	
	東洋の文化財文様学	2前・後	2		○								兼1	
	文化財保存環境科学Ⅰ	3前・後	2		○								兼1	
	文化財保存環境科学Ⅱ	3前・後	2		○								兼1	
	インターシップ	3前・後	2				○	1						
小計 (8 科目)	—	0	16	0	—		1	0	0	0	0	兼4	—	
研究	卒業研究Ⅰ	4前・後	5			○		2	1	1				—
	卒業研究Ⅱ	4前・後	5			○		2	1	1				
	小計 (2 科目)	—	10	0	0	—		2	1	1	0	0	0	
合計 (112 科目)		—	26	204	0	—		4	2	2	0	0	—	—
学位又は称号	学士(文化財学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
教養科目から必修科目5科目10単位を含め30単位以上、専門教育科目より必修科目3科目6単位、卒業研究10単位を含め94単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位(年間))							1学年の学期区分		2			期		
							1学期の授業期間		15			週		
							1時限の授業時間		90			分		

吉備国際大学文化財学部アニメーション文化学科設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 学園の沿革

学校法人高梁学園は、岡山県高梁市において、昭和42年に「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」ことを建学の理念とし、順正短期大学および順正高等看護専門学校を開校以来、保健医療ならびに福祉の分野、幼児教育の分野における実践の場で活躍しうる人材を育成している。

その後、平成2年4月に吉備国際大学社会学部を開設し、国際社会における異文化に対して深い理解を持ちうる人材、地域社会における様々な問題の解決を行いうる人材を輩出すべく、その育成に携わるとともに、社会学教育と研究における中四国地区での中心的役割を果たしてきた。保健科学部及び社会福祉学部を平成7年に、平成16年には政策マネジメント学部を増設し、保健医療分野ならびに社会福祉分野、そして知的財産・環境に関する専門的知識を有する人材の育成と、その諸領域における教育・研究の充実に努めている。また平成19年度からは既設の学部・学科の改編を行い、心理学部並びに文化財学部を開設した。現在、6学部11学科体制にて教育研究に邁進している。

さらに、吉備国際大学においては、既設の各学部を基礎としたより高度な研究活動を実施できる大学院教育の充実に取り組んでおり、社会学研究科・文化財保存修復学研究科・保健科学研究科・社会福祉学研究科・臨床心理学研究科に加え、通信制の社会福祉学研究科・国際協力研究科・保健科学研究科・環境リスクマネジメント研究科・知的財産研究科・臨床心理学研究科（博士後期課程のみ）を設け、学術的、地域社会的、国際的要請に貢献できる研究体制を確保している。以上のように吉備国際大学では、時代とともに変遷する多様な社会ニーズに対応しながら、専門的知識・能力を有する人材の育成を通して、地域社会への知的貢献を行ってきた。

(2) 教育研究上の理念、目的と人材養成

平成13年末に成立した「文化芸術振興基本法」ならび平成14年末に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」において、我が国は“文化遺産の修復及び保存伝承基盤の充実、文化遺産の体験学習機会や文化遺産に関する普及啓発活動の充実などに積極的に取り組む必要がある”とし、「文化財の保存と活用」を文化芸術の振興に関する基本施策として打ちだした。そして、文化庁は、日本社会の活性化のために「文化力」の向上を図ることが極めて重要であるとし、その施策として「文化財の保存修理等、文化財の次世代への継承と発展」を図り、また「国際文化交流を通じて相互理解を増進し、国際平和の実現に貢献するため海外の文化財遺産の保存修復への協力」を図るとしている。さらに、平成15年9月に施行された指定管理者制度により、公の美術館および博物館の運営が民間の指定管理者へ委託が進む中で、文化財を熟知し保存修復や科学的な調査、さらには活用に必要な知識をもった専門職業人の養成が強く望まれている。

こうした社会的変遷の中で、これまでは社会学領域を基盤としたカリキュラム体系をもって文化財に携わる専門職業人の養成を行ってきたが、基本的な教育研究の対象となる文化財の歴史的背景や基本的な美術領域、さらには文化財の修復・保存科学・活用等に必要となる科学的論拠を充分にもった文化財に携わる専門職業人の輩出をさらに目指していくため、平成 19 年 4 月、社会学部から文化財学部として独立し、文化財修復国際協力学科を入学定員 50 名にて開設した。

そして、平成 13 年に成立した「文化芸術振興基本法」には、同時に「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」をメディア芸術と定義し、文化庁は、メディア芸術の一層の振興を図るために収集、保存、修復及び人材育成の重要性を提言している。そして、メディア芸術を我が国の重要な文化と位置づけ、そしてその重要な文化財の保存に着手しようと計画している。しかし、現在のところ我が国では、メディア制作の人材不足を背景に、これらの展示や保存、情報発信等の場所だけでなく、海外から求められる漫画、アニメーション等のメディア芸術を発信できる人材についても不足していることから、メディア芸術の一層の振興を図るためのメディア芸術作品の制作、収集、保存修復及び発表の機会の拡充や、これらを取り扱う人材育成の強化が課題とされている。

特にメディア芸術の主要部分を占める漫画は、日本において歴史が非常に古く、平安時代の鳥獣戯画絵巻や、また江戸時代後期の浮世絵師葛飾北斎（1760～1849）の描いた「北斎漫画」はその後ヨーロッパに伝えられ、ジャポニズムの要因となり、その描写や構図は、モネやゴッホ等の印象派の画家達に多大な影響を与えた。このことから分かるように、東洋美術、西洋美術に大きな繋がりを持ち、日本のアニメーションのルーツと言える。

そこで、日本の漫画文化を母体としたアニメーション文化を社会学の一端ととらえ、これを教授することは、メディア芸術の一層の振興を図るために収集、保存、修復及び人材育成の重要性を提言している文化庁の趣旨に沿うものであり、これを「アニメーション文化学科」にておこなうことは非常に意義のあることと考える。

また、文化財修復国際協力学科と同様に、さらなる時代の要請に応えるために「アニメーション文化学科」では、クリエイターの養成だけでなく、我が国におけるメディア芸術の文化的価値と重要性を十分理解し、作品の制作・収集、保存修復、そしてクリエイター等の作品の発表のサポートができるなど、アニメーション文化の発展を総合的に担える専門職人材の養成をおこなうことを目的とし、平成 22 年 4 月に文化財学部新たに「アニメーション文化学科」を入学定員 40 名で増設する計画である。

卒業後の進路としては、ベテランクリエイターの高齢化が進むなど国内のアニメ制作の人材不足が進んでいることから、クリエイターや制作に係わる専門技術者としてアニメ制作会社や広告会社への就職が見込まれる。また、アニメの作品の収集や保存修復、発表等の企画立案の専門人材として資料館等の公共施設や出版社等に就職が見込まれる。

（3）文化財学部が完成年次を迎える前に開設する理由

上述のように、平成 13 年に成立した「文化芸術振興基本法」において「映画、漫画、

アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」をメディア芸術と定義し、文化庁が、メディア芸術の一層の振興を図るために収集、保存、修復及び人材育成の重要性を提言してから、今年ではや 10 年が経過しようとしている。

しかし現状は、特にアニメーション等については、作品として完成を迎えると同時に、その時に制作した原画、動画、セル画などは完全に遺棄されてきた。また、パソコン等のデジタル機器によって制作している現在においても、原画、動画や絵コンテ、レイアウト等は捨てられる傾向にある。しかしながらこうした制作過程にこそ、集団で制作するアニメーション等のメディア芸術の志向性や指向性、芸術性やその考え方の断片が込められており、その価値を認め広く収集と保存を行うことや、その価値を一般の人々にも広く知らしめることは重要である。

しかし、我が国のメディア芸術、特にアニメーションや漫画は、世界中で模倣や盗作が現在でも頻繁におこなわれており、その結果、その優れた芸術性や、文化的にも経済的にも重要な文化財としての価値が損なわれている。

そこで、これらの文化財も早急に収集し、管理・保存・修復の必要がある。そのためには、一刻も早くこれらメディア芸術作品の収集、保存修復及び発表の機会の拡充や、これらを取り扱う人材育成の強化が必要であると考え。そこで、この度、文化財学部の完成年次である平成 23 年 3 月を待たずに、平成 22 年 4 月に文化財学部の中に、新たに「アニメーション文化学科」の開設を計画するものである。

2. 学部、学科等の特色及び学位の名称

文化財学部は、地域的特性を踏まえ、文化財の修復・保存科学・活用の基礎領域から専門領域までの教育研究体系をより強化し、現行の学部・学科教育を、「文化力」の向上に期待が高まってきた社会の情勢に的確に対応させ、文化財学領域を明確にした学部・学科の特色を具現化し教育体系の基盤としている。

既設の文化財修復国際協力学科は、東洋美術・西洋美術および文書史料を対象とした文化財修復学、自然科学的手法（特に文化財非破壊分析法）を基礎とする文化財保存科学、文化財の画像保存と活用領域における文化財デジタルアーカイブ製作技法学、そして文化財の再評価と活用領域における文化財情報学などを全面に出し、他大学とは異なる個性と特色を明確に打ち出そうとするものである。その根底には、これまでと同様に、社会形成の中で生まれてきた文化財を社会学的な観点から考察し、文化財を中核においた教育研究の中で国際協力の在り方を理論的に体系付け、世界文化遺産の保存と活用にも貢献できる専門職をも育成できる教育課程を編成することで、その特色をより明確化している。

そして今回計画している「アニメーション文化学科」では、文化財修復国際協力学科と同様に、文化財領域を教育体系の基盤とし、「文化力」の向上のためにアニメーション等を通してメディア文化・芸術の振興に寄与できる専門職人材の養成を目指していきたいと考えている。

具体的には、文化財修復国際協力学科と同様に、東洋美術・西洋美術および文書史料を対象とした文化史および文化財保存学を学び、専門科目として、アニメーション技術

や著作権を含む知的財産権について学ぶことで、メディア芸術のクリエイター養成を主体としている他大学とは異なり、メディア芸術の文化的価値と社会の重要性を理解しつつ、作品の制作・収集、保存修復、そしてクリエイター等の作品の発表をサポートできるなど、アニメーション文化の発展を総合的に担える専門職人材の養成を目指すことで特色を出している。

学部の名称は、「文化財学部（英訳名称；School of Cultural Properties）」としており、この度新設する学科の名称としては、「アニメーション文化学科（英訳；Department of Animation Culture）」が相応しいと考えている。また、教授する学位の名称は、「学士（文化財学）／英文名称；Bachelor of Cultural Properties」が相応しいと考えている。

3. 教育課程編成の考え方及び特色

「文化財学部」は、「学生個々の個性を生かし、現在の文化形成の基盤となった文化財学を学び、その保存伝承と活用に必要な専門職業人としての専門的知識と技能を発揮し、国内外の文化財に関わる諸分野において幅広く活躍できる人材の育成」を学部の理念としている。

そのため、「基礎科目」の中で文化財学部生としての基盤を養いながら、さらに「アニメーション文化学科」では、メディア芸術、特にアニメを含む文化財の背景にある社会・文化・歴史・芸術学といった理論と文化財の保存修復と活用に必要な科目とアニメーション文化の歴史やアニメーション技術等を理解できるように、人文系と自然科学系の科目が共存した学際領域的「専門教育科目」の充実が肝要であると考え、それに沿った教育課程の編成を計画した。

具体的には、「専門教育科目」を「専門基礎科目」、「アニメーション科目」、「関連科目」および「研究」に区分し、先ず「専門基礎科目」では、アニメーションも含んだ文化財についての基礎教育を目的とした科目、「文化財保存学Ⅰ・Ⅱ」、「国際協力概論Ⅰ・Ⅱ」、「現代社会学Ⅰ・Ⅱ」、「文化史Ⅰ・Ⅱ」、「美術史Ⅰ・Ⅱ」、「色彩学」、「撮影光学」、「コンピュータグラフィック基礎Ⅰ・Ⅱ」、「西洋絵画技法」、「東洋絵画技法」、「現代美術概論」、「芸術概論」、「工芸技法」、および「文化財から学ぶ歴史と科学」などを選択科目とした。

また、専門科目としての「アニメーション科目」では、アニメーション文化を総合的に理解するために、「日本アニメ文化論」と「アニメーション基礎」、「アニメーション概論」の3科目を必修科目とし、「デッサン基礎Ⅰ・Ⅱ」や「映像概論」、「アニメーション演習Ⅰ・Ⅱ」などのアニメに関する科目と「著作権法学」や「映画・アニメの著作権」など知的財産権に関する科目を配し、アニメーションの専門的知識とアニメーションを活用するための知的財産権など学びこととしている。

さらに「関連科目」では、アニメを含んだ文化財の保存修復を科学的見地から学ぶ科目として「文化財の科学Ⅰ・Ⅱ」や「文化財保存環境科学Ⅰ・Ⅱ」を、また、文化財の保存修復を学ぶために深く関連してくる総論的に意味合いを持たせた講義科目（8科目）を配している。

そして、「研究」に区分した教育課程において、文化財学の専門教育過程を踏まえた学生個々の高度なアニメーションの活用研究を、それぞれ実践的な演習によって教育していく考えである。ここでは学生個々の自発的な研究指導を担う「卒業研究Ⅰ」および「卒業研究Ⅱ」を配している。

以上の科目配当のもとで、教養科目より必修科目 5 科目 10 単位を含め 30 単位以上、専門教育科目より必修科目 3 科目 6 単位以上、卒業研究 10 単位を含め 98 単位以上、合計 124 単位以上の単位取得をもって卒業要件と定め、修業年限 4 年間で学部教育理念に沿った教育・研究の実践指導を行いたいと考えている。

4. 教員組織の編成と考え方及び特徴

この度の「アニメーション文化学科」の設置計画に際しては、教育課程に沿った専任教員の配置を計画しており、アニメの専門分野だけでなく、文化財を通して「文化力」の向上を図るための教育及び研究指導が確保できるものと確信している。

そして、その教員構成は、教授 4 名、准教授 2 名、講師 2 名の合計 8 名の専任教員で、年齢構成も 40 歳代 2 名、50 歳代 3 名、60 歳代 3 名とバランスの取れた年齢配置となっており、教育研究の実績、経験ともに豊富であり、これまで述べてきたメディア文化・芸術の振興に寄与できる専門職人材の養成を目指す文化財学部の教育理念に基づくものである。

専任教員の内 4 名は、アニメの技術や芸術性、音響、コンピュータグラフィックス等の情報技術など、アニメの専門分野についての教育及び研究にあたる専門教員を配し、その他 4 名の専任教員については、社会福祉学部より異動し、文化的価値や社会性について、教育及び研究にあたる専任教員として配置している。

このように、本学部の人材育成の目標に沿った中枢的な各科目に専任教員を配置することで、将来にわたってより専門的な優秀な人材を社会に輩出して行きたいと考えている。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

文化財学部アニメーション文化学科（入学定員 40 名）の教育方法は、大学設置基準第 25 条に規定する「授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。」に従って、授業を実施するものである。講義科目については原則 1 クラス体制により行う計画であるが、語学教育などについては教育効果に配慮し複数クラスでの実施を行うものである。また、情報教育など演習科目については、複数クラスでの実施やゼミ形式での実施を行うこととする。実験・実習科目については、複数クラスでの対応または複数教員による実施形態をとることにより、きめ細かな実技指導が実現できると考えている。

また、教育課程における科目年次配当については、「学生一人一人の能力を最大限に

引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」とした学園の建学の理念に則り、高等教育機関の卒業生たる教養教育並びに人間教育を念頭に、「教養科目」については1年次・2年次を中心に科目配置している。「専門教育科目」については、各学部学科の専門的な教育研究領域を4年間に渡って履修できるよう1年次から配置しているが、その中でもより高度で専門的な科目等については、専門基礎教育を経た上での教授が理想的であることから、2年次・3年次を中心に科目配置を行っている。これらの基礎及び専門教育の成果をもって卒業研究がおこなえる教育体制を確立している。

また、本計画において本学の特色である、国際社会における異文化に対して深い理解を持ちうる人材、地域社会における様々な問題の解決を行う人材を輩出すべく、大学共通科目として、総合科目に「世界の中の日本」、「備中高梁に学ぶ」及び「キャリア開発Ⅰ」（1年次）を必修科目に、「キャリア開発Ⅱ」（2年次）を選択必修科目として配している。また、「専門教育科目」においては、本学の当該学科の専門領域と専任教員の特色ある教育研究内容を理解させ、学生個々における4年間での学習目標や研究成果を明確化させる内容をもって構成することで、2年次以降での履修指導にも繋がれると考えている。また、「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ」によりキャリアアップの重要性などを初め段階から認識させることで、専門教育に明確な意図をもった理想的な教育研究が展開できると考えており、さらに「インターンシップ」により、将来の就職先を想定した企業内体験により今までの学習成果も踏まえたカリキュラムを配置している。

こうした特色あるカリキュラム配置を行いながら、学生の目標に沿った履修指導を行うために、チューターまたはゼミ形式での学生生活指導により密接な学生指導を行うものである。

また、卒業要件等については、合計124単位以上（教養科目30単位以上、専門教育科目94単位以上）をもって卒業要件と定め、各専門領域の科目履修並びに単位修得を義務づけている。なお本学は、全学共通として単年度における履修の上限を50単位と定めており、本計画の学部学科においてもその上限を踏襲する。しかしながら、過度とならない単位修得を実現するために、また、より効果的な教育を個々の学生に修めさせるためにも、学生個々の状況に応じた履修指導を徹底して行う考えである。（資料1）

次に、他大学等における履修による単位の認定については、本学学則に定めるとおり、60単位を上限として認めることとする。その上で、当該学部・学科の教育目標や人材育成の理念に沿った認定体制を確保するために、その履修等についてはチューター又はゼミ担当教員等が希望学生よりその動機や目標などを詳細に把握し有益と認めた場合に限り、教授会等での必要な手続きを経て認定することとしている。

6. 施設・設備等の整備計画

本計画にあたっては、既設の学科のカリキュラム構成をもとにアニメーション専門科目を配し、より専門性を高めるカリキュラムを編成することで、教育理念と人材育成を明確にしており、施設・設備等の整備計画については、既設学部、学科の開設時やその後の環境整備において既に十分な教育施設および設備が整っており、新たな整備計画については必要ないと考えている。

また、図書等の整備についても、充実した環境が整っているため特に今回整備はおこなわず、年次の進行により必要な図書や雑誌等が発生した際には、随時整備していく計画である。

7. 入学者選抜の概要

本学学部・学科の入学者選抜の方法は、大別して推薦及び一般の入試形態により入学者の選抜を行っている。

推薦入試においては、学習意欲が明確な人材、学芸やスポーツに固有の能力を有しかつ本学の教育理念と教育内容に賛同する人材など、専ら本学の学術領域について究めることを希望する意欲のある人材を選抜するものである。具体的な選抜方法としては、AO選抜や書類審査・個別面談の特別推薦選抜、また小論文を課す一般的な推薦選抜により、優秀な人材を確保するものである。

また、一般入試では、前期・中期・後期並びにセンター利用を含めた4区分を設け、国語・外国語・数学などの科目から設定された選択科目より、受験生が自ら得意分野を選択して受験し、その結果をもって選抜を行う。

このたび届け出る学部・学科においても、現行の選抜方法を踏襲し、学部・学科の教育内容や教育理念に対する理解をもった、優秀な人材を受け入れたいと考えている。

8. 管理運営の考え方

本学部での、教学的な管理運営の実施体制としては、教授会において審議・検討を行い決定する。具体的には教育課程の変更、当該学部学科等に係る諸規定の改廃、当該学部への入学、学位授与および卒業等の事項など、直接的事項に関する意志決定を委ねるものとする。

その他、専任教員採用等に係る格付け審査に関しては、当該関係領域の専任教員等による専門分科会により格付けを検討審査し、学長・副学長等で組織する全学審査会上申し、総長・理事長との協議により格付けが決定され、教員の採用及び昇格が行われる。

また、学部・学科等の新增設など大学全体に係る総括的事項については「大学協議会」において審議・決定し、理事会および評議員会に諮問し最終決定を行う。大学協議会の構成メンバーは、総長を議長に、学長、副学長、研究科長、学部長、事務局長などの主要な構成員により組織するものであり、総長は、その必要性に応じて学内はもとより、学外からも構成員として専門職種の人材を招集し、多角的な観点からの意見をもとに意志決定を行うこととしている。

9. 自己点検・自己評価に関する対応

本学吉備国際大学においては、学長の諮問組織として「自己点検・自己評価委員会」を設置している。委員会では学長を委員長として、「自己点検・自己評価方法及び体制に関する事項」「教育理念及び教育活動に関する事項」「その他自己点検・自己評価に関する事項」を協議することとしている。また委員会の評価項目に対応させて、次の9つの部会を調査・実施組織として機能させている。

- (1) 基本事項検討部会 (2) カリキュラム部会 (3) 教育指導部会 (4) 研究活動部会 (5) 学生活動部会 (6) 図書館部会 (7) 情報処理機器部会 (8) 就職部会 (9) 大学院部会

これらの部会においては、平均年2～3回程度で適宜その必要性に応じて部会を開催し、個別の点検・評価実施項目について検討を行っており、調査や成果の見直しを図った事項など実績をもとに自己点検・自己評価委員会でまとめ、平成7年度以降年1回の公表会を実施している。そこで指摘された事項を検討し、将来の展望をもとに、本学のあるべき大学像の検討を重ねている。平成9年3月には、初めての「吉備国際大学白書－自己点検・自己評価報告書－」を作成し学内外に公表した。

その後、平成16年3月に2回目の「自己点検・評価報告書」を作成し、それを大学基準協会加盟判定審査報告とし、平成17年4月に「大学基準に適合している」との認定評価を受けた。

また「学生の授業評価アンケート」に関しては、平成12年度から継続的に実施している。この結果を基に授業改善につなげているが、より実践的な効果をあげるために授業評価アンケートを実施する科目範囲、回数、方法などを再検討しつつある。また授業評価以外にも大学施設、各種サービス、職員等を対象とした学生アンケートを計画し、大学全体の各種環境の質的な向上を図る。さらに今後学生以外の外部評価機関からの定期的な評価も取り入れ、多元的な評価システムを構築する予定である。

本学部では、学部および大学院が文化財総合センターを中心に一体となって教育研究に取り組んでおり、フォーラムや文化財調査など教育研究の質の向上のため外部機関と共同し積極的に取り組んでいる。さらに、学部、大学院生の卒業論文発表時には、学内教員だけでなく美術館や資料館等の学外から評価委員として論文審査をおこなっている。

10. 情報の提供

本学では、web上にホームページを開設しており、建学の理念、各学部・学科紹介、図書館、シラバス、教員プロフィールなど（下記の①～⑦の項目）大学の教育・研究の情報を公開している。特にweb上のシラバスでは、授業科目を記載し、本学の教育研究内容の公開に努めている。

- ①専門分野とそのバックグラウンド ②担当科目 ③現在の研究テーマ
- ④著書・論文 ⑤所属学会 ⑥メッセージ
- ⑦電子メールアドレス

情報の更新は、web 上から各教員自身で ID とパスワードを入力することで、専用の画面から書き換え可能なシステムを導入しており、随時情報は更新されている。

また、国立情報学研究所の研究者データベースにも研究情報を提供し、教育研究活動の公開に努めている。今後も、産学官連携、地域連携を促進するべく、情報公開項目を再検討し、具体的な教育研究活動に関する情報提供を推進していくこととしている。

さらに、各学部単位の研究紀要は毎年発行し、各研究所からはそれぞれの研究報告書を作成し発行している。その他には、毎年作成する大学案内、学校法人の機関紙である「TEI」、関連学園である加計学園との共同機関紙である「KETHY」などを通して学内情報等を公開し提供している。